

介護福祉学生は実習記録において何を指導されているのか

What are the guidance of students belonging to training programs for certified care workers in practical training records?

宮元 預羽、小嶋 栄子

<要旨>

保健・医療・福祉分野の実習に限らず、専門職業人養成における現場実習においては、養成校で学んだ知識と実習先で学んだ知識、実践内容などを統合し、日々の実習日誌（あるいは実習記録）に記録し、振り返り、研鑽して行く必要がある。介護福祉士養成校においても実習日誌の意義目的、実習日誌の記載方法等を実習前教育として指導し、実習施設・事業所に送り出しているが、実習生自身はそのすべてのスキルを身につけているとはいいがたい。よって今回、介護福祉士養成校の実習生は、実習巡回教員あるいは実習事業所の実習指導者より、どのような点を指導されているのか、を研究ノートとしてまとめ、今後の実習教育の参考にしていきたいと考えている。

<目的>

介護福祉士養成校の実習生、特に本学の実習生は、実習日誌の書き方においてどのような点が欠如していて、実習巡回教員あるいは実習事業所の実習指導者より、どのような点を指導されているのか、をまとめ、今後の実習教育・指導の参考にすること。実習生には、教員で更に再分析し、後日開示することを約束している。

<対象>

本学における介護福祉専攻1年生。5月に介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）実習を3日間、8月に認知症対応型共同生活介護（認知症対応型グループホーム）実習を7日間、8月に訪問介護事業所（ホームヘルパー事業所）実習を2日間、8～9月にかけて障がい者施設（障害者支援施設もしくは医療型障害児・療養介護施設）実習を7日間行った

<方法>

本学における科目「介護総合演習Ⅰ」の授業内において、これまでに行った介護実習における実習日誌を持参させ、指導事項を付箋紙に記載させ、KJ法の手順で図解化させた。実施は2016年12月。参加者は16名。教示文は「実習日誌の書き方～施設の実習指導者や巡回教員の先生より指導を受けたこと～」とした。今回の研究ノートにおいては、実習生が行った図解化は省略し、実習生が記載した指導事項、指摘事項（付箋紙）をもとに、本学教員2名で行った分析（頻出語リスト、カテゴリー分類）のみの報告とする。

<研究1>

実習生が記載した指導事項はすべてテキストにした。分析ソフトはKH Coder ver 2.00fを使用し、品詞の種類分類はせず、頻出語の確認を行った。総抽出語数は420語までとなった。頻出語リストは表1に示した。

表1 頻出語リスト

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
書く	62	座る	2	筋肉	1
記入	17	思う	2	空間	1
具体	17	視点	2	計る	1
考察	14	事例	2	計量	1
内容	13	字	2	検温	1
ダメ	12	書ける	2	見せる	1
実習	12	詳細	2	原因	1
利用	10	場面	2	現在	1
イニシャル	7	短縮	2	言葉	1
根拠	7	調べる	2	言葉づかい	1
目標	7	読む	2	個別	1
情報	6	日記	2	口	1
用語	6	能力	2	口中	1
使う	5	分かる	2	工夫	1
介助	4	文章	2	行	1
漢字	4	法律	2	行動	1
観察	4	目線	2	合う	1
形	4	量	2	最後	1
疾患	4	綺麗	2	細菌	1
手順	4	お手伝い	1	残存	1
詳しい	4	だめ	1	使用	1
振り返る	4	コミュニケーション	1	指摘	1
表現	4	コメント	1	施設	1
過去	3	シャワー	1	事項	1
客観	3	スケール	1	似る	1
業務	3	ダメ	1	自分	1
個人	3	テキスト	1	実際	1
考える	3	ネット	1	社会	1
指導	3	バッチリ	1	手際	1
実践	3	ブリストル	1	種類	1
出す	3	リハビリ	1	授業	1
上	3	印	1	習う	1
上目	3	飲水	1	症状	1
専門	3	温	1	上がる	1
大切	3	臥床	1	場	1
的	3	会話	1	状況	1
反省	3	改める	1	職員	1
分ける	3	学び	1	職種	1
方法	3	学ぶ	1	色	1
ケア	2	完成	1	食事	1
介護	2	感	1	寝る	1
確認	2	感想	1	身体	1
気	2	環境	1	進行	1
記録	2	間違える	1	人	1
挙げる	2	関係	1	人的	1
距離	2	眼	1	図る	1
教える	2	基	1	推測	1
見る	2	疑問	1	水分	1
誤字	2	義歯	1	正式	1
口腔	2	狭い	1	積極	1

<研究2>

実習生が記載した指導事項、指摘事項（付箋紙）をもとに、本学の介護福祉専攻において、科目「文書資料講読」の授業を担当している言語学研究者の教員と介護実習指導に関わる筆者で、「カテゴリー」「サブカテゴリー」「コード」の3分類を行い、カテゴリー化した。「コード」は実習生の記載を忠実に表現する為、原文のままとした。尚、実習生に対するKJ法等による分類あるいは整理方法の指導も不十分であり、大部分の実習生は毎回同じ指導を受けているにも関わらず、一枚の付箋紙のみにまとめている様子も見受けられる為、「指導、指摘事項」は、一度、実習生のフィルターに通したものを、教員が再分析していることにも留意する必要がある。また、一つの事項（付箋紙）に2つの項目が2点確認された為、その項目は※にて印を記載した。結果は表2に示した。

表2：実習日誌の書き方（指導を受けたこと）

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (実習生の記述：原文ママ)	記録 単位数		
実習目標に 関すること	目標の立て方	実習目標は具体的に、	2		
		振り返りやすい実習目標にする、	1		
		2段階の目標にすると振り返りやすい、	1		
		目標を具体的に記入する※	1		
		目標にそった学びをしている、	1		
		実習目標は必ず振り返る、	1		
	目標の取り組み姿勢	目標に対して行動しその内容を優先的に記入する、	1		
		介助の実践をもっと積極的に、	1		
		基本的な 文章の書き方	漢字の記載	漢字で書く、	2
			漢字の記載	漢字を間違えない、	1
漢字を使う、	1				
誤字脱字	誤字に気をつける、			1	
日記調の表現	誤字脱字		誤字、	1	
			字を綺麗に書く、	1	
		綺麗な字、	1		
	日記調の表現	話し言葉は使わない、	1		
		日記的表現をさける、	1		
		日記表現はNG、	1		
		丁寧語は使用しない、	1		
		ですます調はダメ、	1		
		「やられていた」はダメ、	1		
		過去形	文章は過去形にする、	1	
過去形	過去形で書く、	1			
	記録は現在進行形ではなく過去形、	1			
	専門職としての 文章の書き方	学校で習ったことの応用	専門用語を使う、	2	
学校で習ったことの応用		専門用語、	1		
		介護用語を使う、	1		

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (実習生の記述：原文ママ)	記 録 単位数
		リハビリなど短縮しない、	1
		担当業務は法律用語で、	1
		施設の種類の正式名称で法律用語で、	1
		「目をつむるは閉眼」、	1
		「口を閉じるは閉口」、	1
		「口中」はダメ「口腔内」、	1
		「寝てばかりだった」ダメ「臥床」、	1
		コミュニケーションを図る、	1
		一日の水分の量を計量してみる、	1
		距離は適度に、	1
		体温を計るは「検温」、	1
		「お手伝い」じゃない、	1
		「入歯」は義歯、	1
		残存能力にあわせた介護本来ならば潜在能力、	1
		指導が1コも入っていない、	1
		言葉では伝わりにくいとき物を見せる、	1
		授業で習ったことを実習で確認できているとほめられた、	1
		利用者との距離感を保つ、	1
		人的・物的・社会的に見る、	1
	根拠の記載	実習内容は教えて頂いた根拠調べた根拠を書く、	1
		根拠を明らかにする、	1
		根拠を書く、	1
		自分なりに根拠をテキストやネットで調べて書く、	1
		推測はだめ、	1
		どの様な点でそう判断したのか書く、	1
	マナー	第三者から見てもわかるように記録する、	1
		第三者に分かるように記入、	1
		訂正印、	1
		最後の行までつめて書く、	1
		文字も短縮しない、	1
		実習内容と考察を分けて書く、	1
		実習内容と考察を分ける、	1
		文章力完成バッチリ、	1
		学んだことが書けている、	1
		教えてもらったことは分かりやすく書けている、	1
具体的な記述	具体的に書く	具体的に書く、	5
		具体的に	2

介護福祉学生は実習記録において何を指導されているのか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (実習生の記述：原文ママ)	記録 単位数
		具体的に記入	1
		具体的内容を書く、	1
		具体的に書くこと、	1
		個別ケアとかでなく具体的に書く、	1
	手順を書く	手順を具体的に書く、	1
		業務の手順も書くこと、	1
		業務の手順を書く、	1
		「手際よく」この手順を書く、	1
		大まかな流れでなくその人に合った介助方法を記入、	1
		他職種連携矢印書く、	1
	会話を書く	発言内容は具体的に書く、	1
		どのような会話をしたのか具体的に記入し※	1
	客観的視点	実習内容には客観的に観察、	1
		客観的に、	1
		客観的視点で書く、	1
		何時とか詳しく書く、	1
		シャワーの湯温まで書く、	1
		素材まで書く、	1
		表情も観察して記入、	1
		排泄の場면을詳しく記入する、	1
		口腔内のどの筋肉かまで書く、	1
		どのようなケアを実践したのかを記入する、	1
		観察したことを詳しく記入する※	1
		観察したことを書く、	1
		1例を挙げて、	1
	明確化	似たようなことは書かない、	1
		色・量が実際どれくらいか書く、	1
		誰の介助をしたのか書く、	1
		部屋の配色も書く、	1
		入浴後の飲水書く、	1
		曖昧な表現はダメ、	1
		疑問に思ったらその場で確認する、	1
		掃除と関係すること書け、	1
		やりとりをもっと詳細に書く、	1
		食事前中後どの場面、	1
		「狭い空間」どれ位か書く、	1
人権意識	上から目線	上目線で書かない、	2

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (実習生の記述：原文ママ)	記 録 単 位 数
		「浅く座らせてしまった」は上目線、	1
		「座らせる」はダメ	1
		「してあげる」はダメ、	1
		「上がらせる」はダメ、	1
		「脱がせる」はダメ、	1
		してやっています感な表現はダメ、	1
		言葉づかいに気をつける、	1
		上から目線的な書くのはダメ、	1
		利用者に対する視点が上から、	1
	個人情報保護	利用者名はイニシャルで、	2
		利用者名はイニシャル、	1
		個人情報を出さない、	1
		イニシャルで書く、	1
		職員名もイニシャルで書く	1
		個人情報は出さないイニシャルで、	1
		イニシャル、	1
利用者の状況を 把握すること	医療的情報	疾患名を書く、	2
		何の疾患か	1
		「ブリストルスケール」どのような内容か書く、	1
		どのような細菌がつくかまで書く、	1
		疾患を具体的に書く、	1
		認知度がどれくらいか書く、	1
	その他の情報	必要な情報と不必要な情報を考えながら記入、	1
		利用者の身体状況※	1
		利用者の ADL 面も記入する、	1
		情報だけの記入はダメどのような情報か内容を書く、	1
		個人としての症状が大切、	1
	利用者の反応	利用者の反応を詳しく書く、	1
		詳細記入、	1
		介助者だけの記入ではなく利用者の記入も、	1
考察の書き方	反省的ふりかえり	考察は反省的ふりかえり、	1
		反省的ふりかえり、	1
		反省的振り返りをしようとしている所は良い、	1
		細かな指摘事項を改める、	1
		指導者からのコメントは大切に読む、	1
		大切に読む、	1
		何を指導うけたのか、	1

介護福祉学生は実習記録において何を指導されているのか

カテゴリー	サブカテゴリー	コード (実習生の記述：原文ママ)	記 録 単位数		
考察で何を書くのか		環境に対しての考察を書く、	1		
		考察は実践したことを基に根拠をふまえて考察する、	1		
		考察は考えた根拠を書く、	1		
		様々な方法があるがなぜその方法があるのか追及して書く、	1		
		事例を挙げて考察しよう、	1		
		感想ではなく考察を書く、	1		
		原因を追究して書く、	1		
		工夫したところを書く、	1		
		事例を出して記入する、	1		
		利用者がどう思っているのか考える、	1		
		考察して書く、	1		
		考察を書く場所		考察に実習内容は書かない、	2
				実習内容と考察を分けて書く、	1
				実習内容のところに考察を書いていた、	1

<結果・まとめ>

研究1について:表1の頻出語リストによると、「書く」62件、「記入」「具体」17件、「考察」14件、の順で多く、実習生は、具体的に記述することと考察することが苦手なのではないか、ということが考えられた。

研究2について:表2のカテゴリーは「実習目標に関すること」、「基本的な文章の書き方」、「専門職としての文章の書き方」、「具体的な記述」、「人権意識」、「利用者の状況を把握すること」、「考察の書き方」、の7つに分類された。これは、養成校として指導はしている“つもり”であるものの、指導・指摘が実習生に伝わっていない部分とも考えることができる。よって今後は養成校として、実習目標の立て方や取り組み姿勢、読み手の立場に立って記載する文章力の習得、学校で習ったことと実習実践を関連付けることの必然性、自分自身の実習の為に具体的に明確的に書かなければならないこと、利用者視点と人権意識、考察の具体的な書き方等を、今回の分類結果をもとに指導していく必要がある。また、実習生が付箋紙に記載した指導事項・指摘事項の中には、巡回教員や実習先の実習指導者による具体例の記載も確認できた為、実習生は具体例の指示が印象に残っていることが考えられた。よって実習生に対しては、「具体的に記載する」等のような抽象的な指導・指摘ではなく、「例えば、～のように記載する」のように、指導者側も具体例を示す必要性を改めて確認することができた。